

## 第3章 『環』の公共事業行動計画 ～ 『環』の公共事業ガイドライン～

### 1 『環』の公共事業の趣旨

府では、15年12月に、府の公共事業を環境共生型の地域社会を築くための公共事業へと導いていく指針として、『環』の公共事業行動計画を策定し、公共事業による環境への負荷を低減していくこと（環境にやさしい）、失われた自然環境や地域固有の景観を再生していくこと（環境をつくる）、持続可能な循環型社会の基盤づくりを進めていくこと（循環をささえる）を目指しています。

この『環』の公共事業の考え方を、府が実施するすべての公共事業において具現化していくため、構想・設計・施工・管理など公共事業の各段階において、事業評価や実施の基準となる「ガイドライン」を16年度に策定しました。

### 2 『環』の公共事業ガイドラインの実施

『環』の公共事業の考え方をもとに、環境への負荷の低減のみならず、積極的に環境を創り出す視点を含めた「ガイドライン」を策定し、原則として府が実施するすべての公共事業に適用していきます。

特に、この「ガイドライン」においては、先駆的な取組として、事業実施に至る前の構想や再評価の段階で、環境の視点から公共事業を総合的に評価する仕組みを導入し、環境にとってプラスと評価される事業を積極的に推進する一方、環境にとって著しいマイナスと評価される事業については、たとえ経済的視点からの評価が高くとも見直していきます。

「ガイドライン」に基づく評価については、府内部での自己評価に加えて、第三者機関や府民による評価が適切に行われるよう、府公共事業評価審査委員会で審査を行うほか、府のホームページ『環』の公共事業（URL <http://www.pref.kyoto.jp/wa/index.html>）で公表しています。

### 3 『環』の公共事業ガイドラインの仕組み

ガイドラインは、公共事業の構想や再評価の段階で適用する「構想ガイドライン」と、設計、施工及び管理段階で適用する「実施ガイドライン」の2本立てとします。

「構想ガイドライン」及び「実施ガイドライン」による評価や点検を通じて得られたデータや情報を体系的に蓄積し、「ガイドライン」の見直しや、以降の公共事業の評価・実施の改善等に活用します。

#### 構想ガイドライン

- (1) 「構想ガイドライン」は、公共事業の実施・中止等を判断するための価値基準として、従来の経済評価軸（費用対効果などによる評価）とは別に、新たに環境（地域の自然、生活、文化）の評価軸を提示するものです。
- (2) 経済評価軸に加えて、この環境評価軸に基づく複眼的な評価により、公共事業を実施するかどうかを判断します。（これは府独自のシステムです。）

#### 実施ガイドライン

- (1) 「構想ガイドライン」の評価により、実施可能と判断された公共事業については、設計、施工及び管理の各段階で「実施ガイドライン」に基づき点検を行います。
- (2) 「実施ガイドライン」は、部局の縦割を排して、次の工種ごとに作成します。

道路・街路・農道・林道、河川・ダム・砂防・治山、港湾・漁港、ほ場整備、ため池、下水道・集落排水・**浄化槽\***、公園、住宅その他建築物、用地造成等

図1 - 8 「構想ガイドライン」による事業実施判断のイメージ

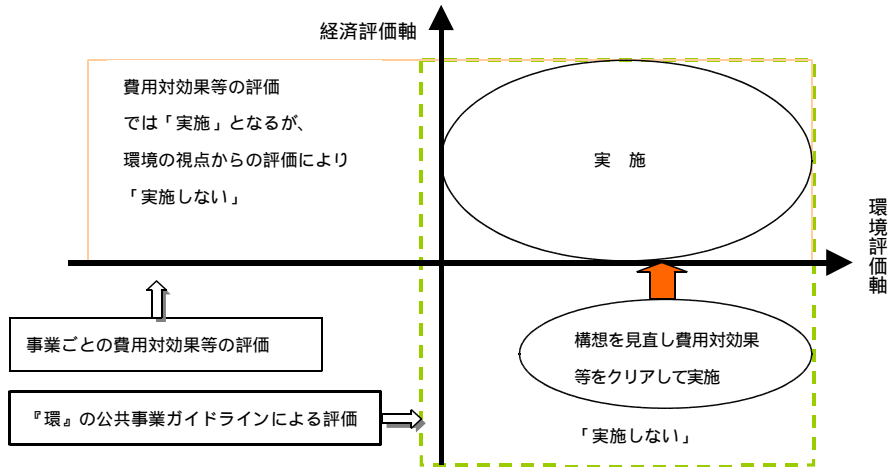
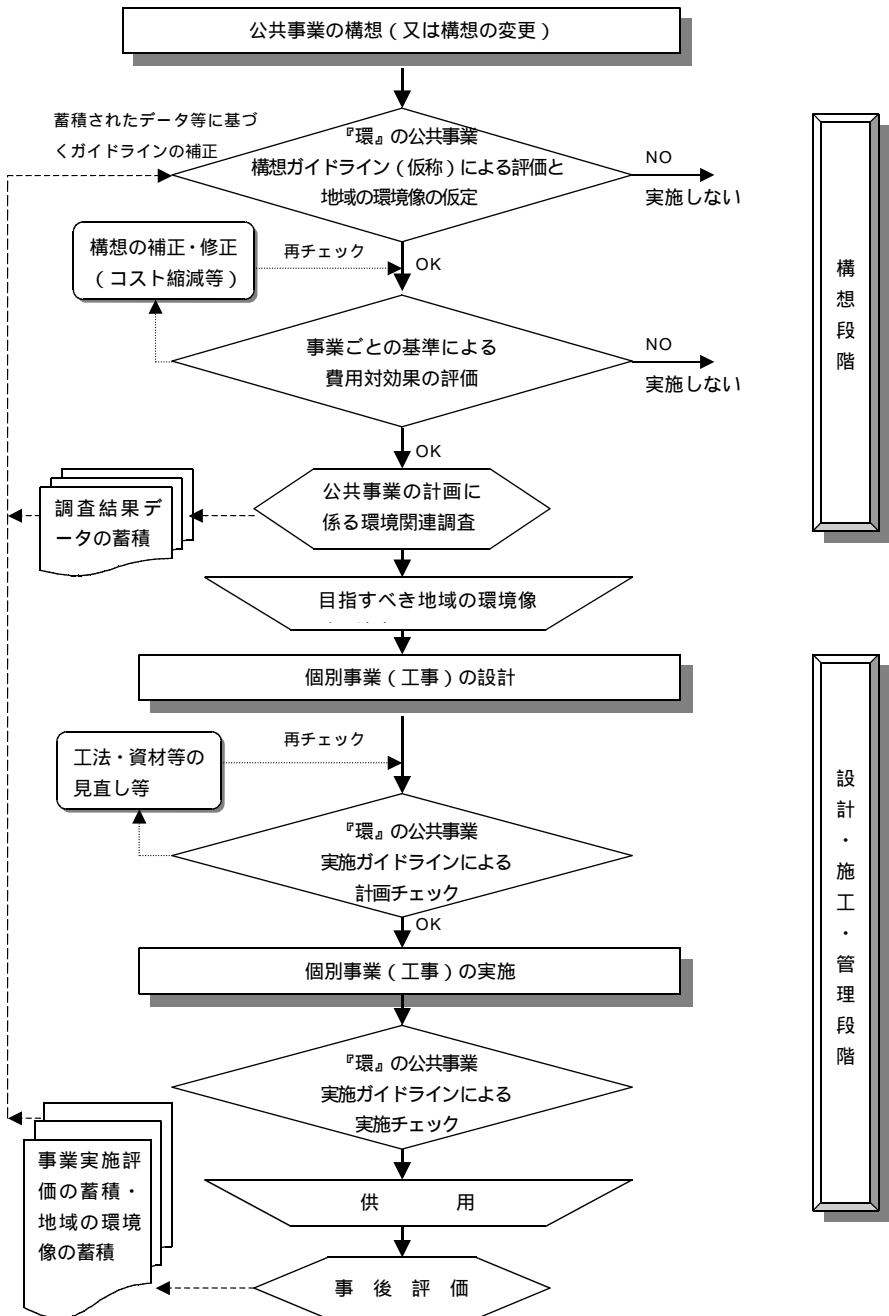


図1 - 9 『環』の公共事業ガイドラインによる実施手順



#### 4 17年度の取組状況

『環』の公共事業の構想及び実施ガイドラインに基づいて、17年9月から、府が行う原則すべての公共事業について、構想、設計、施工及び管理の各段階における環境面での評価をスタートさせました。

17年度は、構想ガイドラインによる評価17件、実施ガイドラインによる評価191件について取り組みました。この評価結果についてはすべて府のホームページで公開しています。

表1 - 13 『環』の公共事業ガイドライン評価実施状況一覧表（件）

17年度	企画環境部		農林水産部		土木建築部		企業局		合 計		
	構想	実施	構想	実施	構想	実施	構想	実施	構想	実施	計
	0	2	2	76	13	85	2	28	17	191	208

構想：構想ガイドライン評価シート

実施：実施ガイドラインチェックシート

『環』の公共事業の主要な関連事業として、17年度に39事業、4,802百万円に取り組みました。

- ・環境にやさしい （11事業、2,680百万円）
- ・環境をつくる （19事業、1,828百万円）
- ・循環をささえる （3事業、57百万円）
- ・先導的プロジェクト（6事業、237百万円）